

皆さまの医療費の状況をお知らせします！



共済組合では、「データヘルス計画」および「医療費適正化対策事業」の一環として、令和元年度および令和2年8月分のレセプト（診療報酬明細書）をもとに医療費の統計を行いました。

どのような病気で医療機関にかかっているのか、1人当たりどれくらいの医療費が使われているのか、年齢によってどのような疾病が多いのかなどの目安になります。

なお、組合員の皆さまには、年2回医療費通知を発行しています。日頃から医療費への関心を持っていただくことが、皆さまの健康と健全な医療保険制度の運営につながります。

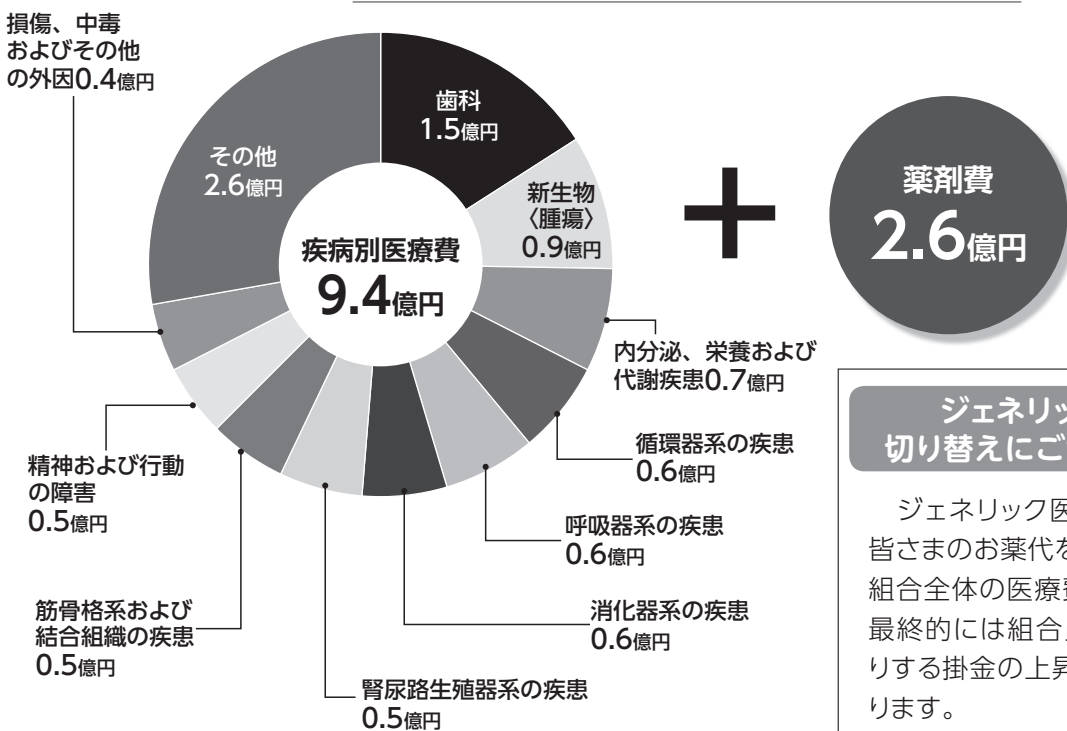
医療費トップは歯科疾患！！

令和2年8月の医療費に注目してみました。1カ月の医療費を疾病分類別にみると、「歯科疾患」が全体の16%を占め1位となっています。そのうち、およそ8割を慢性歯周炎・慢性歯肉炎が占めています。このグラフから、生活習慣を見直すことで予防可能な疾病が上位を占めていることがわかります。

また、薬剤費は昨年と同様の約2.6億円となっています。この薬剤費のうちジェネリック医薬品の利用は約51%です。

早期発見、重症化予防のために健康診断は定期的を受けましょう。健康診断で異常が見つかった場合は、放置せず必ず医療機関を受診しましょう。

●令和2年8月の疾病分類別医療費と薬剤費●



ジェネリック医薬品への切り替えにご協力をお願いします！

ジェネリック医薬品に切り替えると、皆さまのお薬代を減らすとともに、共済組合全体の医療費を抑えることができ、最終的には組合員の皆さまからお預かりする掛金の上昇を抑えることにつながります。

内分泌・代謝疾患の受診状況をチェック!

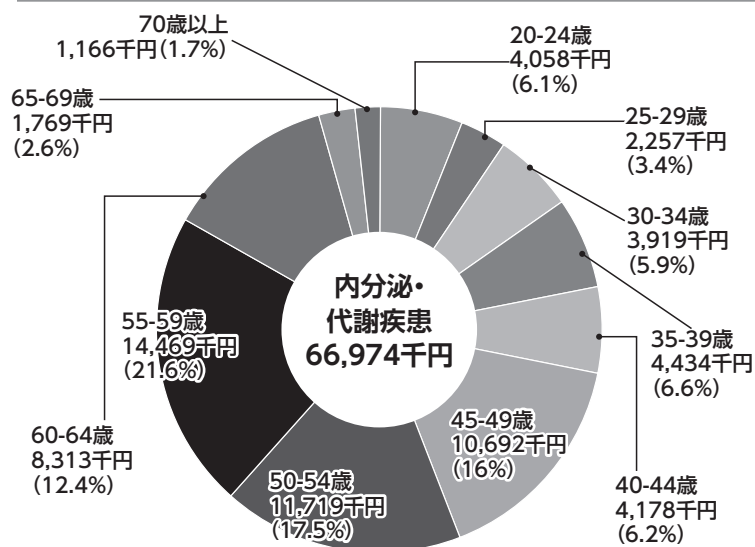
内分泌・代謝疾患と聞いてもあまりピンと来ないかも知れませんが、生活習慣病でお馴染みの糖尿病や脂質異常症、メタボリックシンドロームがこれに分類されます。

令和2年8月の内分泌・代謝疾患の医療費について、年齢階層別で分析すると、下記のグラフの結果となり、罹患数は30代から徐々に増え始め、50代後半になると、なんと40代前半の約2.4倍も増えています。

1人当たりの医療費を見ると、全世代をとおして高額であることがわかります。

この中でも糖尿病は、重症化してしまうと厳しい食事制限に加え、長期にわたリインスリン注射や、透析をしなければなりません。毎月の医療費が膨大になるのはもちろんのこと、治療のために貴重な時間や人生の楽しみも奪われかねません。好きなことを楽しめるよう日頃の生活習慣にも意識を向けて健康な毎日を送りたいですね。

● 内分泌・代謝疾患の年齢階層別の医療費と構成割合 ● ● 内分泌・代謝疾患の1人当たりの医療費 ●



年齢区分	罹患数(件)	1人当たり医療費(円)
20～24歳	86	47,188
25～29歳	127	17,771
30～34歳	195	20,096
35～39歳	194	22,856
40～44歳	242	17,265
45～49歳	432	24,749
50～54歳	498	23,531
55～59歳	577	25,077
60～64歳	396	20,992
65～69歳	60	29,490
70歳以上	55	36,421

生活習慣の改善と定期的な検査が最大の予防法

生活習慣病を発症する方の中には、検査結果を見て異常値だったり異常値に近づいていたりすることがわかって、放置して悪化させてしまう方がたくさんいます。また、今年が正常値だから来年も安心だとは限りません。生活習慣の改善に加え健診などを定期的を受けて、自分の状態をチェックすることが生活習慣病予防の基本です。

毎年
受けましょう!



コロナ禍でも医療機関で適切な受診を!

新型コロナウイルス感染症への感染の懸念から、医療機関の受診を控える傾向がみられていますが、健康・持病の管理は重要です。かかりつけ医に相談しながら、必要な受診をこころがけましょう。

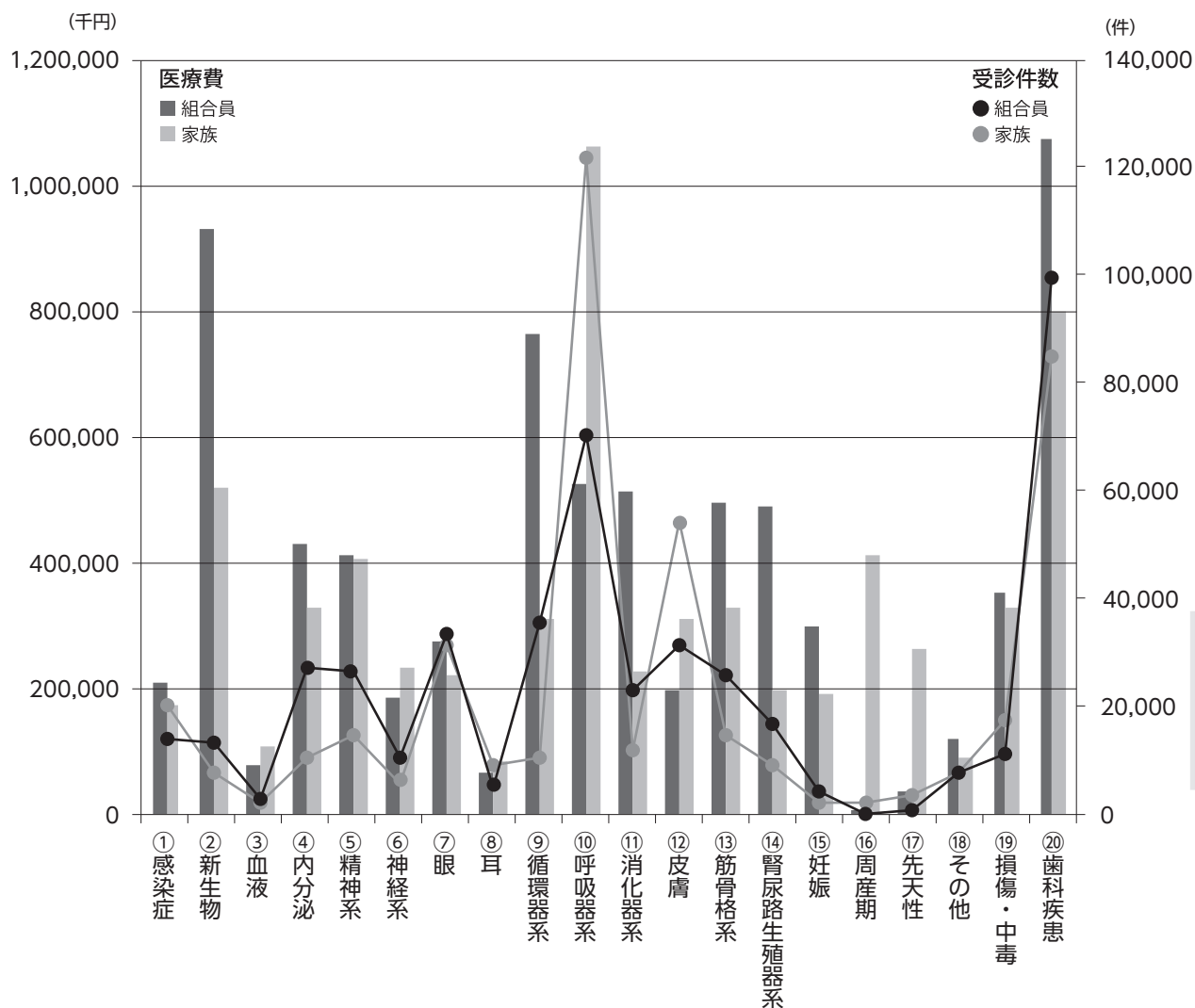
1. 過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。
2. コロナ禍でも健診や持病の治療、お子さまの予防接種などの健康管理は重要です。
3. 医療機関や健診会場では、換気や消毒でしっかりと感染予防対策をしています。
4. 健康に不安がある時は、まずはかかりつけ医・かかりつけ歯科医に相談しましょう。

※詳しくは、上手な医療のかかり方 .jp (厚生労働省の公式ウェブサイト) をご確認ください。

令和元年度の医療費と件数を疾病分類別にみると

組合員と家族を合わせた合計の件数は「呼吸器系の疾患」と「歯科疾患」が顕著に多く、医療費では「歯科疾患」がトップで、「呼吸器系の疾患」、「新生物」、「循環器系の疾患」と続きます。

組合員でみると「歯科疾患」、「新生物」の医療費が多いことがわかります。家族では「呼吸器系の疾患」の医療費が最も多い金額となっており、続いて「歯科疾患」が多くなっています。「歯科疾患」は、組合員と家族ともに件数も医療費も多いことがわかります。



さらに年齢階層別に詳しく分析すると…

項目	主な傷病名
① 感染症	結核、ウイルス肝炎
② 新生物	腫瘍、白血病、がん
③ 血液	貧血
④ 内分泌	糖尿病、脂質異常症
⑤ 精神系	うつ病、統合失調症
⑥ 神経系	パーキンソン病、てんかん
⑦ 眼	結膜炎、白内障
⑧ 耳	外耳炎、メニエール病
⑨ 循環器系	高血圧症、脳梗塞
⑩ 呼吸器系	かぜ、アレルギー性鼻炎

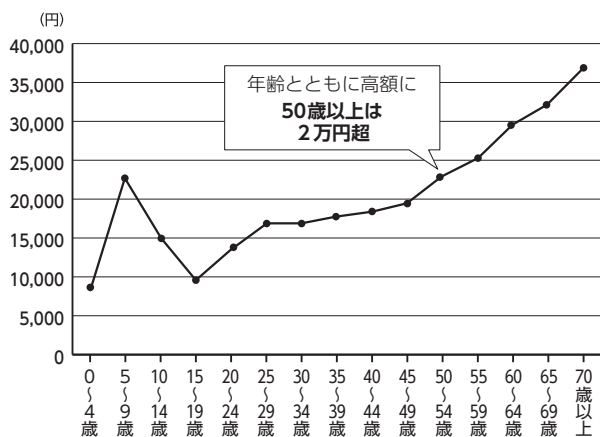
項目	主な傷病名
⑪ 消化器系	胃炎、肝炎
⑫ 皮膚	湿疹、にきび
⑬ 筋骨格系	関節症、腰痛
⑭ 腎尿路生殖器系	腎不全、尿路結石症
⑮ 妊娠	流産、切迫早産
⑯ 周産期	胎児発育の障害
⑰ 先天性	染色体異常
⑱ その他	ほかに分類されないもの
⑲ 損傷・中毒	骨折、やけど
⑳ 歯科疾患	むし歯、歯周病

1人当たりの医療費を疾病分類別にみると

$$\text{1人当たりの医療費} = \frac{\text{疾病分類ごとの総医療費}}{\text{平均組合員数} + \text{平均被扶養者数}}$$

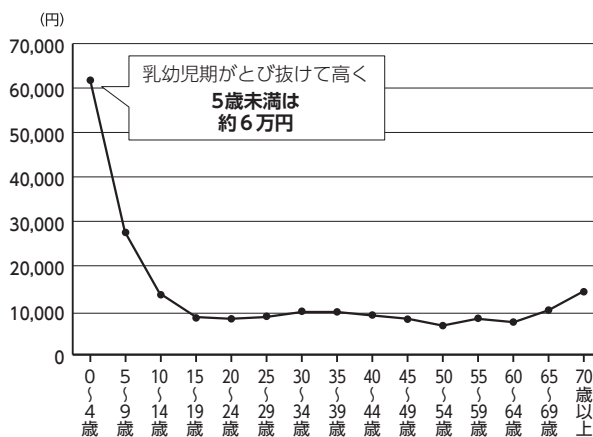
歯科疾患

むし歯、歯周病など歯の疾患では、5～9歳が2万2,765円と高く、また、15歳以降は年齢を重ねるごとに高くなる傾向にあります。



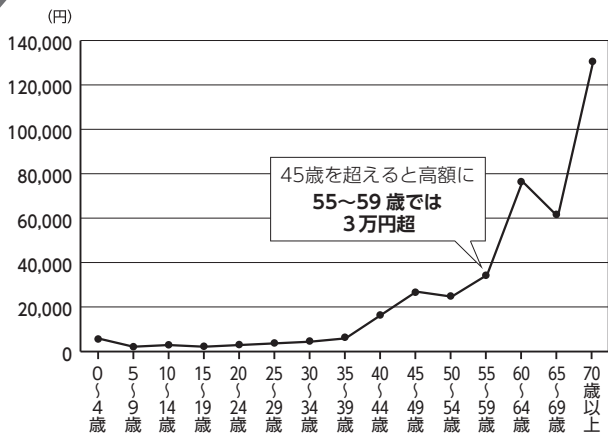
呼吸器系

かぜ、アレルギー性鼻炎、喘息等を含む呼吸器系の疾患では0～14歳までが全年齢層の中でも特に高い傾向にあります。乳幼児期は約6万円と、とび抜けて高くなっています。



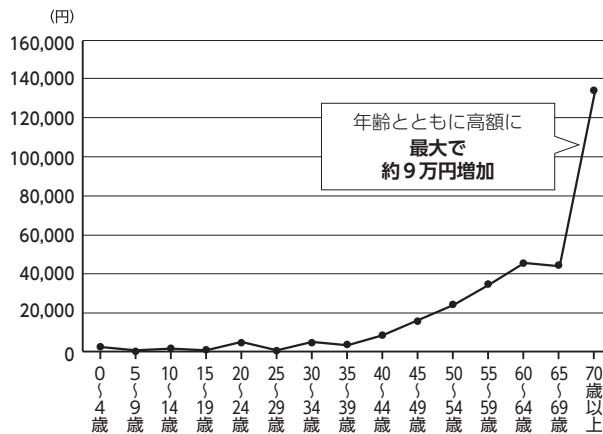
新生物

乳がん、胃がん、肺がんなど主にがんの疾患で、30歳からは年齢とともに徐々に高くなり、35～39歳は0.5万円、40～44歳は1.6万円、45～49歳では2.7万円と倍増しています。



循環器系

循環器系の疾患では狭心症などを含む心疾患や脳内出血などの脳疾患が多くみられ、29歳まではほぼ横ばいですが、30歳以上からは年齢とともに増加していく傾向にあります。



これまでの統計・分析から、30歳から年齢を重ねるごとに高血圧やがんなどの生活習慣病関連の医療費が多くかかっていくことがわかります。一方で、むし歯やかぜなど普段からかかりやすい疾患は乳幼児期や50歳以上の方に医療費が高くなっています。これら身近な病気は、毎日の歯磨きやうがい、手洗いなどで予防することができます。

生活習慣全般から起こる様々な体のトラブルが原因の疾患が30歳を境に受診者数が増加しており、医療費も高額になります。年に一度は必ず健診を受け、食事や飲酒など日頃の生活習慣を見直し、禁煙や運動を意識的に日常に取り入れるなど、日々のちょっとした行動を習慣づけて家族みんなで健康的な暮らしを実現しましょう。